

板倉政要補遺

十一

和書門類			
二五二八	九七	一七	一
號	函	架	冊

內閣文庫			
三五二八	一三	一	八
號	冊	架	函

內閣文庫	
番號	和 25228
冊數	12 (11)
函號	182 305

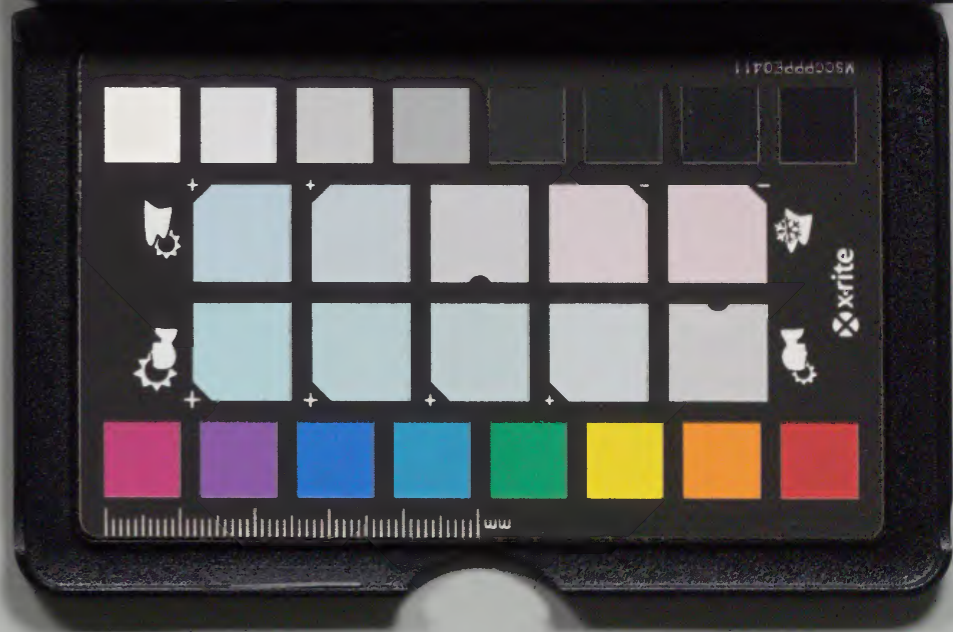


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



板倉政要補遺卷之拾壹目錄

一 家中法度

二 追加

三 一定

四 一覺

五 一屋鋪割

一付一覺

六 一家作金

一覺

七 一皆濟ノ事

八 一定

九 一覺



明治十年騰寫

内務省

十一 知行所人足扶持ノ覺

十一 耕作出精シテ不勝手ノ者ニ貸金覺

十一 寺社勤役中家中法度

十一 條々

十一 萬治四年分限帳侍分計

十一 馬廻以下格式

十一 家中貸米渡様

十一 呼出候子供并加増跡目ノ者覺

十一 江戸ニテ渡物ノ覺

十一 駕ノモノ仕着仕着

十一 常州ヨリ譜代ニ抱候者給金

十一 一ヶ年入用ノ積

十一 服忌令



政要補遺卷之拾壹 阿波守重鄉傳第貳

家中法度

公儀御法度之旨堅相守之附直參之衆六不及

申與力同心衆迄聊以慮外之間鋪儀仕間敷事

一實之勇常々心掛老若不限武藝不可怠武具

分限應可所持之并馬不絕樣可仕事

一於江戸如何様儀出來候凡年寄不得差圖

而一人不可參江戸ヲ離居候時同

前之事

一諸役人ノ用所伺申儀思案入間鋪儀ハ無違



一 滯可相調役ニ付奢リ過々ト相延スヘカラス
 吟味モ詰ラス又理屈ケ間鋪事下トシテ及異
 儀ハ仕置ヲ輕スルト可為同意事
 一 城中ノ儀ハ暮六時以後本二三丸ノ門出入無
 用然レ無據用所ニテ城外ヨリ入者ハ外ニ罷
 一 在年寄氏一人宛ヨリ手紙ニ判ヲ致シ其手紙
 ニテ可相通事
 一 喧嘩口論不仕様ニ常々可相慎若喧嘩仕候ハ
 バ雙方成敗但シ時ニヨリ所ニヨリ重罪ノ者
 一 一方成敗タレハシ付リ父子兄弟ノ儀ハ不

及是非其外助太刀猶以其科重カルニシ且又
 其座ニ居合候者事無様ニ仕テ却テ事ニ成
 マシキ儀ヲ傍輩トシテ不吟味ニテ申立悪事
 出来ニ於テハ後日ニ聞ト云レ可為罪科事
 一 縦ハ番之者家焼候氏夜中ハ當番者出候儀
 一 停止ノ事
 一 他所ノ者ハ云ニ不及一人宛成氏一列令停止
 之候附リ如何様ノ好々有之氏他所ノ者一宿
 一 不可留口ナキ仕合ニ候ハ八月番ヲ以可
 一 伺候但シ飛脚留候テ不叶モノハ月番ノ年寄

氏ハ斷書出シ手紙ヲ取目付方ヘ相渡シ其上
ニテ可留并ニ他不可泊然氏於無據ハ是又月
番ヲ以斷足輕中間ハ頭ニ申達シ又者ハ主人
可差圖事

一領地ノ内寺社町人百姓ヨリ食物ノ類迄音信
并ニ人馬ノ心付等不可請他所ノ諸職人モ我察
處ノ用ヲ調候者方ヨリ右同前附リ此分ニハ
借貸停止事

一養子傍輩遠類ノ者モ於無之者他所ノ親類ニ
テモ本父俗姓中達シ其上ノ儀不苦無左候ハ

ハ他人ニテモ家中ノ内ニテ可調免魚得内意
其上ニテ契約可相定事

一用ナクシテ他所ヘ不可出何事ニヨラス群集
ノ日ハ用所有之候氏罷出候儀遠慮仕但シ市
日ハ格別ノ事

一不依何事カケノ諸勝負并人請ニ立候儀停止
之付リ暇ノ儀一季居ノ者ハ時ノ風俗之由又
ハ心ニ如在ナクシテ聞達思タカヒ候儀ハ格
別賢ハ思ヒ定タルニモ無之不詮儀ニテ傍輩
ノヲモワクニ付義理ヲ忘レ當分ノ身ノ為ニ

試ノ様ニ用人迄モ暇ヲ申出ス事武士ノ耻ハ
キ儀ノ事

一諸事兼日ヨリ申出ス仕置ノ旨自今以後少モ
不可相背付リ又者ハ主人常々ニ可申付事ハ

一萬治四年丑正月阿波御書判ニ
追加

一江戸銭湯風呂ハ不可參并用ナクシテ他所ハ
不可出何事ヨラス群集ノ日ハ用所有之候ハ

一罷出候儀遠慮可仕候事
定

一所々ノ番無懈急每朝代ハ刻限無相違様可

仕并役儀等無油斷可相勤事

一城内番ノ者暮六時以後如何様ノ用所有之候

ハ城外ハ不可出然レハ親子妻急病候ハ番頭

目付ノ者相判ニテ手紙ヲ添可出之事

一二三丸ノ内ヨリ暮六時以後城外ハ出候者有

之ハ左右衛門茂兵衛兩人ノ内一人ノ札ニテ

可出若兩人不居合時分ハ本丸當番ノ目付ノ

者判ニテ可出付リ二三丸ニ住居ノ外城外ハ

夜中出候付二ノ丸本丸ハ札手紙ヲ取ニ參候

者ハ一通但晝ニテモ本丸ハ家中ノ者并普
 請ノ時人足ノ外ハ百姓以下ニ至迄留主中湯
 入無用之事
 一馬古ルスキ岩上ノ障ニ可成程ニ候ハ無油斷
 仕替申ヘキ事
 一傍輩仲ケ間ニテ振舞并酒計ノモテナシモ無
 用自然不求来カ、リ無據候ハ一汁一菜酒ニ
 返三人ヨリ多ク集リ候ハ振舞ニ逢ヘカラス
 但祝言ノ節ハ除カタキ分計リ吸物ニ二汁
 五菜酒三返タトヘシ木具停止之小身成者ハ

此積ヲ以可減少事

- 一關宿ニテ賣カ、リ一ヶ月ヲ延候事并手廻シ
- ニ紛侍分商ケ間敷事停止ノ事
- 一關宿ニテ侍分ノ衣類何ニテモ縮紬木綿ノ外
 無用妻子ニ至マテ可有其心得事
- 一足輕中間又者木綿ノ外停止之又若黨ノ儀ハ
 主人心次第細計ハ若カレ間鋪事
- 一金銀ノ鐔ニセ物ニテモカイヲキ絞ノ鞆不可
 指步小姓步侍ノ分ハ鐔同斷金銀ノ縁頭ニセ
 物ニテモ并カイヲキ絞類ノ鞆停止之但諸事

公私ノ法度歩小姓歩侍同意ノ事
 一殺生ノ事小鳥迄并留川次ニ運上ノ場堅停止
 一之右之川ノ外獵イタシ不苦場モ其處ノモノ
 一獵ヲ妨候様不可致総テ耕作荒シ候ハ可為曲
 一事事
 一我等ハ云ニ不及家中ノ召仕男女モニ暇出候
 一以後屋鋪ハ出入不仕様ニ可改之但シ出入不
 一仕候テ不叶者ハ年寄モ申達書付門番所ハ
 一張置引合可通事
 一家老年寄モ娘他所ハ遣候ハ縁邊不申宛前廣

一可伺之事
 一城之内ノ者致普請日用ヲモ數多入候時分ハ
 一月番ノ年寄ハ斷普請主ノ札ニテ門ヲ出入候
 一ヤウニ可仕事
 一土取場相定候他所ニテ一圓不可取タト一面
 一々屋鋪ノ内タリトモ隈ニ土ヲ不可掘々不申
 一候テ不成候ハ月番ノ年寄ハ斷得差圖屋鋪奉
 一行ハ見セ其上ノ儀タルハキ事
 一火事ノ砌面々屋敷ノ井戸タリモ道具入候事
 一無用付川本丸ニノ丸ニテハ^我禁道具ニテモ井

門番

之事

其屋鋪割ニ付而覺

一地形不祿成處ヲ一度ニ數多ク割セ其上繪圖

計ヲ見候テ申付候間不相應ノ事并間數十坪

十五坪ハ繪圖ニ相違ノ儀モ可有之坪不足ノ

處ハ奉行ニ斷其不足ノ通ニテ諸事無異儀可

請取事

一借金トラセ候金子大形ヲ以申付候間高下差

引不相應ノ儀可有之候得凡堪忍候テ可請取

事

一下下シテ屋鋪替付之但互ノ勝手能候ハ年

寄トモマテ其様子ヲ申尤成儀ニ究候ハ此方

へ可申候可申付事

一貸シ金為取候金子ニテ無差引作事可仕候モ

シ入ダシナクテ不成候ハ大身成モノ拾兩ヨ

リ多入候テ作事無用其下ノ者身代相應ニ可

極下ヨリ望屋鋪替此方ヨリ申付五三年ノ内

別屋鋪ノ節ハ若入用算用ノ儀候ハ右ノ趣ヲ

撥立候事

一明屋鋪ノ儀ハ間數竹木迄改其隣ノ者可預勿

論共節奉行ヲ遣シ立會セ可申事
 一 金_々屋鋪ノ内堀并雨ニテ水溜候程ノ處有之
 候ハ今度屋鋪奉行ニ見セ請取連々其者介性
 次第可埋立事
 一身代ヨリ家ヲ少サク與方ハ猶以輕ク作ヘシ
 内外ニテ常ニ破損ヲ繕所替ノ節少モ見若敷
 ナキヤウニ兼テ其合点仕入シ相身體ニ候
 年寄_氏ノ儀ハ五人十人集ル事モ可有之候間
 座敷計廣キハ不苦事
 一 表通り并脇小路_{勝手}サハ能候ハ長屋塀モ不

苦但シ塀板覆ハ_茅垣并竹垣其上座ノ并
 可成處ハ申合持候ヤウニ可致併揃候ユヘ入
 用増_シ處ハソ口ハスルニ不及候事
 一 門引戸并片扉糞戸上ケ戸竹戸此外ハ無用ニ
 候查右衛門茂兵衛儀ハ城内ハ_一候間只今
 ノ通兩戸ヒラキ不苦事
 一 ナケシ作無用白土坂土并寢所ノ外板敷無用
 一 事
 一 障子家ニ付所ノ分漆ニテ又リ候_一無用
 一 事

一塀上直張付ハ不苦如常下地ヲ拵張付無用

一家長屋凡破風榮耀仕儀無用之事

一表通り脇小路屋鋪ノ見込ニモ可成處ノ木元

ニテ一尺廻リヨリ上ヘノ木ミタリニ不可伐

家作ニ構ニナル處ハ格別候間月番ノ年寄凡

ニ斷得差圖其上屋敷奉行ハ見セ可伐事

一不及申候得凡數寄屋カコヒ并エヤウケ間敷

屋作無用ノ事

一北ノ曲輪ニ居候者凡屋鋪狭ク難儀ニモ可存

候得共以來普請テニ連々池ヲ埋候テ腰

板ニ仕儀ハ無用ノ事

一何時ニヨラス屋鋪替申付候時分内證迄參リ

相改ナセ可聞届候間只今ヨリ其心得可仕事

一家作り候者ニハ此書付テ以委ク讀聞スヘシ

一高千石ヨリ五百拾石迄金六十五兩

一高五百石以下同三十三兩二分

一高百五十石以下同三十二兩

一同四百石以下同二十八兩

一同二百石以下

一同三百五十石以下 同二十五兩二分

一同三百石以下 同二十三兩

一同二百五十石以下 同二十兩二分

一同二百石以下 同十八兩

一同百五十石以下 同十四兩

或八米二十石外扶持迄

一同五十石并米拾五石三人扶持 同十三兩

或八米拾一石迄

一米拾石以下八石并鼻紙代仕著 同六兩三分

親子一所 若供者 其身取候分三分一貸

金租シ妻子持 八三分二貸金

石之貸金貸候翌年ヨリ五年ニ返濟之事

一皆濟不仕候分別ニ書付相届候佐州 牧野年々

備置被申米金取切ラレ百姓イタミ申候由内

々 我 其風聞承リ候ハ可被取若之借物ヲ

ノハ先日ノ帳之通被拵殘置被申候ハ百姓

申口之様ニハ有之間敷候然共所替其上大體

モツヨキ百姓ノ様ニハ無之候其上大體ニ逢

候事詰リ申モ左様可有之事候勿論家屋鋪ヲ

為責候テ納取仕候様ニ卜符ニテハ無之候一

一人前宛其子細相尋先日モ如申遣候日數ヲ應
 候子細ニテ候何程モ相延シ未進ハ當暮日
 リ不仕答ニ合点致ス為ニモ能可可有之候
 酉正月二日阿波御印
 定
 一毎年々貢皆濟不仕内諸勸進入間敷事
 一借錢仕候凡皆濟ナキ以前ニ濟シ申間敷候皆
 濟以後如約束無相違濟可申事
 一其年々貢ノ割符小百姓ニ能見セ小百姓手
 前ニ寫置少モ無相違様ニ可致皆濟事

一年貢百姓仲ケ間割符無相違ナカニ可仕非
 分ヲ仕小百姓訴訟申ニ於テハ割符ヲ見候テ
 セシサリ可仕候條仲ケ間ハ割符念ヲ入六ケ
 一鋪無之様仕置可申事
 一切支丹穿鑿其郷中ニテ毎年一度ツト總百姓
 立合吟味可仕事
 一諸浪人一切置申間鋪事
 一其郷ニ浪人久敷引込居候カ他所ヨリ參リ候
 夫其郷ニ久敷罷在候ハ有様ニ申其上置可申
 事

一何ノ郷成凡徒成百姓於有之ハ早々可申上事
 一何ノ郷ノ百姓致流浪其所ノ来候ハ在所ヲ聞届
 其所ノ莊屋百姓ニ相尋無相違者ニハ則何ノ
 郷ノ百姓致流浪来候付テ何時誰置候ト斷其
 上置可申事

一手負其郷へ參候ハ留置早々注進可仕事
 一郷中道橋惡鋪處ハ兼テ作り可申事但シ其處
 ノ百姓自分ニツクリ候ト不成處於有之ハ早
 ヲ可申来候此方ヨリ申付作スヘキ事
 一舟持改小荷駄馬割并人足割高下無之様ニ割

付可申事

一其郷ハ掛リ候諸役ノ儀高下無之ヤウ念入割
 帳ヲ付可申候若小百姓訴訟申ニ於テハ帳面
 ヲ以穿鑿シ可置事

一莊屋申付候事少モ違背仕間鋪事
 一莊屋ニ前々ヨリ用捨仕事其郷ニ有来如クニ
 可仕自然法ニハツレ惡キ事有来候ハ此方へ
 可申来他郷ヲモ聞合可然様可申付事
 一各所領町奉行郡奉行并其所ノ莊屋ニ届ナク
 シテ年季ノ事ハ不及申一季居タリ凡一切他

所へ奉公ニ出スヘカラサレ事

一 徳還ノ者無滞様駄賃馬以下可肝煎事

右之條々^{我等}兼領分之間ハ堅可相守之若違背之

輩有之者曲事可申付者也

明曆二丙申八月廿二日 阿波御印

周防御印

覺

九 百姓山先規ヨリ家中ノ者ニ薪入柴入米候由

此度ハ薪直段ヲ宛家中ノ者ニ申付候間元水

ヲ不伐朽木ハカ^シ口シ年寄^正方ヨリ書付

之通薪無相違相扇銀子當座切ニ役人方ヨリ

可請取他領ノ儀ハ不及申定之外家中之者ニ

一 毛薪賣候ハ當人曲事訴人ニ出候者ニ不褒美

可申付脇ヨリ相聞候ハ其一村一年代銀押ハ

薪ヲ入サセ可申者也

明曆三年酉十一月廿七日 阿波御印

關宿常州ノ知行所人足扶持之覺

十日ニ三度關宿城廻リ之普請關宿城ノ為ニ

成河申川除普請是^普人足參候村ヨリ御城迄

四里ヨリ遠ク參候人足但シ此人足ニハ關宿

阿波御印

阿波御印

門
機
習

一 此方ヨリ食夕カヒ喰セ可申候
 一 日ニ二度城廻ノ普請關宿城ノ為ニ可成堤
 一 川除普請遠所ヨリ材木關宿ニ持參候人足
 一 是ハ人足參候村ヨリ御城廻リ四里ヨリ近ク
 一 參候人足
 一 一日ニ一度知行所ニテ材木伐申者所々ニ他
 一 所ヨリ參候人足
 一 他村ノ普請ニハ其者ニ夕リニモ成不申候得
 一 氏役ニテ嚴出候人足
 一 百姓閑敷時分關宿ニ參リ普請仕候人足但人

治疑次、設

一 足是ノ遠近ニ事
 一 扶持無之竹伐ニ足并家中薪伐其村ノ普請
 一 他村ヨリ參候人足モ其者ニ夕リニモ成可申
 一 普請
 一 右遠近ノ積關宿御城ヨリ四里外ハ遠キ分
 一 四里ヨリ内近キニ窮申候
 一 殿様御領分中御廻リ被成候ニ路治拵申間敷
 一 候但橋牛馬ノ足入候所ハ兼テ怪我不仕様ニ
 一 下地入念可申候以上
 一 耕作ニ精ヲ出身代不成者ニ貸金之覺

同
務
目

- 一 年寄親ヲ持テコシ兼候者ノ事
- 一 其身年寄成人ノ子ヲ殺候者ノ事
- 一 類火ニ切テ逢候者ノ事
- 一 病者ニ罷成耕作成兼候者ノ事
- 一 幼少ニテ親ニ離レ候者ノ事
- 一 親重ニ高利付候借金請候者ノ事
- 一 作時分ニ煩者ノ事
- 一 山林ニテ入去者ノ事
- 一 其村ノ内ニテ勝トテ昇換水換ニ逢作高
- 一 久内何程換ノ事

昇送早証

- 一 幼少ノ子供多ク有之女房殺候者ノ事
- 一 其身年寄作時分ニ下人下女殺ニ致尺落候者
- 一 同前ノ事
- 一 馬等度々殺シ候者ノ事
- 一 幼少ノ子共多ク持候者ノ事
- 一 ハコクマテ不叶親類多ク持候者ノ事
- 一 竈持候獨リ百姓ノ事
- 一 其村ノ内ニテ勝レテ田畑ノ程遠キ者ノ事
- 一 類火ニテ度逢候者ノ事

一馬一匹殺シ候者之事
 一右之通候者去年下札ノ日付ヨリ若年貢
 一遅ク候者ニ無用ニ候但シ人一人ノ手前不
 一知候ハ年貢遅候一村ハ無用之事
 一此通リニ三段ハ金子ノ高下可有之タノニ候
 一其考又一年ノ利共ニナスルキ田地并茶園ナ
 一トノ考尋候テ夫ニテ差引此方ノ者可仕事
 一右ノ呂穿鑿ハ莊屋組頭但シ小百姓ハ不借者
 一ノ内ニテ闖取ニ二三ノ人差加リ少モ依怙最負
 一無之段奥書ヲ致シ連判可仕事

一此借金一年一割半ノ利足當極月十五日前ニ
 一利尺ニ上納ノ事
 一五人十人宛成尺借リ候者連判ニテ若其内死
 一失ノ者候ハ仲ノ間トシテ辨入可申候但シ藏
 一ヨリ出ル金子ト書入可申事
 一二段目ハ失墜三色有之者ハ一入並入三段
 一目ハ失墜四色有之ハ二入並入候事以上
 正月五日

寺社御奉行御勤ノ内御家中法度

一役儀ニ付テ公儀御威光ノ借リ毛頭奢ケ間

鋪儀不仕候ヤウ堅可相守之附リ自今以後父
子兄弟近キ親類存候テハ出家社家ニ仕間敷
事

一前條ヨリ近付ハ寺社ニテモ屋鋪内ハ不參
候様ニ兼テ申合置ヘシ若呼入度ニ於テハ親
子兄弟タリト云凡出家社家ハ可同事

一病氣強其砌頼置候出家採呼入度候ハ年寄凡
一關宿ニテ八月番ハ者計ニ可申達附リ領内ハ
寺社訴訟ハ儀有之テ年寄凡奉行所へ來候者
ハ格別ハ事

一寺社ハ祈禱宿願宮參格別頼置候寺ニテモ
年忌ハ佛事札守外ハ一圓不可請事
一寺社方ヨリ心付等ハ儀不合様ニ氣遣仕公事
諸事訴訟ハ者ニ毛頭内通ケ間鋪儀不可致若
左様ハ儀有之後日ニモ聞出シ少ク謂分テリ
一此云凡不及許容事
右之條々寺社ハ役相勤候内ハ此旨堅可相守
之違背之輩ハ急度曲事可申付者也

萬治四年丑正月 阿波御判

時書條々

一御當代々被仰出御黒印ハ趣彌不可有違背

一行入方遂灌頂僧侶可著金襴袈裟但シ可為青

一山林之儀ハ修造并無據子細有之節ハ衆徒行

一從行人方相應ハ僧出之如有來承リ仕役可相

一勤事附リ承リ仕役僧對衆徒無作法ハ體不可

仕事

一御社内陣ハ鑰向後天野神主可預置事

一行人方諸事ハ儀修正供養法理之趣三昧迄可

一可請之無難澁如有來可被授之事

一高野山諸事法式ハ儀衆徒行人遂相談如有來

一可執行事
右之條々今度學侶方行人方就淨論被遂御糺
明之上依為差當儀雙方ハ執達之畢重而被出

被下疑有脱字

御條目候迄可被此旨也

萬治三年七月十七日入板倉阿波守

井上河内守

萬治四辛丑家中分限帳寫

一色意恒

慶長年中力不詳客人分

元秀吉公小姓 由有故

高千石 家老 板倉杢石衛門

高五百拾石 家老 大石忠左衛門

父三右衛門 勝重甥分 云武州上新倉

村三 住居後京屋鋪へ引取家老

忠左衛門會第 大石三右衛門

三右衛門世傳 大石三右衛門

高五百石 年寄 片岡茂兵衛

高勝重ヨリ重郷迄

世傳 片岡太兵衛

太兵衛世傳 岡小藏之丞

養子都筑治左衛門甥 同八郎太夫

正徳年中治左衛門事ニ付家断絶

高五百石 年寄 渡邊十右衛門

勝重親族

元錄年中

中有故龜山ヲ立退依之斷絶

高五百石 清水小右衛門

重常代隱居シテ立軒ト號ス

高四百石 家督 同 仁右衛門

高三百石 同 小源太

高二百石 二男 浦上彌次兵衛

高一百石 同 竹太郎

高五百石 都筑治左衛門

高代ヨリノ家

高二百石 同 勘助

高一百石 同 治左衛門

正徳元年不忠ノ儀有之入獄舎斷食ニテ

八月廿五日死ス依之家斷絶

高四百石 是ヨリ番頭役

高三百石 大須賀九兵衛 大須賀傳右衛門

高三百石 梅戸八右衛門 梅戸八右衛門

高五百石 内藤瀬兵衛

高三百石 多羅尾清兵衛 多羅尾清兵衛

内務省

内務省

高石四人ハ重宗代ヨリノ家

高三百石 尾崎又兵衛 尾崎又兵衛

勝重代ヨリノ家

高ニ從是旗奉行役

高四百石 天野藤右衛門

高二百五十石 本多平兵衛 本多平兵衛

石二人モ勝重代ヨリノ家

從是物頭役

高二百石 新美彌五兵衛

高二百石 田那村勘兵衛 田那村勘兵衛

高二百石 朝比奈仁左衛門 四百石 朝比奈仁左衛門

高二百石 田上助左衛門 田上十兵衛

高二百三十石 西郷彦左衛門 西郷與左衛門

右五人ハ勝重代ヨリノ家

高二百石 折井佐太夫 折井小平治

高二百石 芦田太郎左衛門 芦田利兵衛

高二百二十石 桂六兵衛 桂六兵衛

高二百五十石 太田元左衛門

高五百石 梅戸庄兵衛 梅戸庄右衛門

高百七十石 坂田佐助 坂田卯左衛門

内務省

高右六人、重宗代ヨリノ家

高五從是取次役

高二百石 松田六左衛門

高二百石 角尾治右衛門

高一百石 尾崎一郎兵衛 尾崎數右衛門

高二百石 石原彦太夫 勝重ト少イフ由緒

高一百石 設樂八郎右衛門 四百石後年寄老年ニ及家老並

高一百石 乙部本右衛門 乙部本右衛門

高右三人、勝重代ヨリノ家

高百五十石 桑野孫兵衛 桑野孫兵衛

高重郷代ヨリノ家

高百石 鶺殿藤九郎 鶺殿藤九郎

高勝重代ヨリノ家

高百石 板倉平内 納戸番頭

高町奉行二人 田上助左衛門

前二出

高百五十石 小野善五左衛門

高重宗代ヨリノ家

高郡奉行二人

高百五十石 岡本半右衛門

高百五十石

下村五郎左衛門

下村孫左衛門

右兩人氏重宗代ヨリノ家

從是馬廻

高三百石

江見源左衛門

同 梅原甚五左衛門

高二百五十石

山口清左衛門

山口武右衛門

同 杉浦與一兵衛

同 横山伊左衛門

同 右五人ハ重郷代ヨリノ家

高二百石 島野五郎右衛門

島野八彌

重宗代ヨリノ家

同 牧野彦右衛門

牧野十左衛門

勝重代ヨリノ家

高二百石 柴田新之丞

柴田芥右衛門

同 栗田七大夫

同 高木太郎兵衛

同 富氣久右衛門

富氣久右衛門

同 松原七郎左衛門

同 池田與惣右衛門

池田治部右衛門

同 馬場與一左衛門

馬場與一左衛門

高百七十石

荻野鹿之助

荻野加賀右衛門

同 右八人ハ

重郷代ヨリノ家

出田宗勝右衛門

同

乘形

岡村彦兵衛

同 重宗代ヨリノ家

百屋入右衛門

高百五十石

竹立平右衛門

竹立佐大夫

同

外五人扶持

依田十左衛門

依田浅石衛門

高百五十石

本多伊兵衛

本多伊兵衛

同 右三人ハ

勝重代ヨリノ家

同

大塚彌兵衛

大塚勘右衛門

同

荻野小左衛門

荻野小左衛門

同

乘形

小寺七兵衛

小寺七兵衛

同

近藤治兵衛

近藤喜右衛門

同

高久利右衛門

高久利右衛門

同

青木安右衛門

平井才右衛門

同

高瀬十兵衛

高瀬十兵衛

同

儒醫

林三雪

林三雪

同 右八人ハ

重郷代ヨリノ家

出田宗勝右衛門

同

足立忠助

足立忠助

同

設樂忠三郎

設樂忠三郎

同

酒多彌次右衛門

酒多彌次右衛門

同 務 留

同 黒野一郎大夫 黒野市郎大夫

同 倉田新五兵衛 藏田唯右衛門

同 石五人 重宗代ヨリノ家

高百三十石 熊田武兵衛 熊田仙右衛門

同 重郷代ヨリノ家

同 野島六郎左衛門 四百石 世傳 同 六郎左衛門

同 野島 壽閑 野島彌刑部

同 關屋彌一右衛門 關屋彌一右衛門

同 重宗代ヨリノ家

高百石 外四余持 伊藤吉右衛門 伊藤吉右衛門

高百石 森川權左衛門 森川權左衛門

同 中村半十郎 中村五郎右衛門

同 川村小兵衛

同 村上權大夫

同 新美角兵衛

同 石六人 勝重代ヨリノ家

同 三宅久兵衛

同 澤部七左衛門

同 辻玄直 同

同 石三人 重宗代ヨリノ家

同 高瀬左治兵衛

同 野中道仙

同 右二人重郷代ヨリノ家

同 山口次郎左衛門

同 水村源助

同 雨森忠八

同 稻垣與九郎

同 山下源兵衛

同 小野田彌惣左衛門

同 片岡源石衛門

同 古野忠助

同 辻權右衛門

同 古田孫右衛門

同 岩本平大夫

同 右十一人 辻勝重代ヨリノ家

同 右百石取以上

同 從是知行取

高八十石 蜂谷善右衛門

高七十石 安西彌左衛門

同 鈴木八郎左衛門

鈴木万右衛門

同

名倉甚左衛門

名倉丈左衛門

高六十石

雨森甚五左衛門

雨森甚五左衛門

同

空八兵衛

同

日高又左衛門

日高郷左衛門

同

田上與惣兵衛

同

稻田半之丞

同

新石七郎右衛門

同

岡村長右衛門

同

勝重代ヨリノ家

同

多賀源左衛門

多賀源左衛門

同

杉嘉兵衛

杉嘉兵衛

同

高橋新兵衛

高橋權七

同

右三人重宗代ヨリノ家

同

田上治郎右衛門

同

本多又治郎

高五十石

加賀山左五兵衛

加賀山右郎兵衛

同

小林惣左衛門

小林惣左衛門

同

前澤次郎大夫

同

雨森惣兵衛

同

籠島佐左衛門

籠島忠丹治

同 淺田忠右衛門 淺田忠右衛門

同 雨森彌五右衛門

同 福持六郎兵衛

同 名倉彌次兵衛 芥澤仁右衛門

同 五十 金井長兵衛

同 石十一人勝重代ヨリノ家

同 五郎右衛門碎 島野八彌

右知行取二行七人

米二十五石 山後吉左衛門 山後 孫助

重郷代ヨリノ家

同 北久保儀左衛門 北久保儀左衛門

米二十石 村田善左衛門 村田 藤治

同 石川 數馬 石川 喜内

同 石三人ハ重宗代ヨリノ家

同 勘定奉行 伊藤太左衛門 伊藤十郎大夫

勝重代ヨリノ家

同 西川半兵衛 西川柴石衛門

同 出口 三陸 出口 九兵衛

同 外五人扶持 本道 神戶藤四郎 神戶與惣右衛門

同 外三人扶持 和久田一郎左衛門

門 務 留

拾五人扶持

永井治郎作

米五十俵

稻川嘉左衛門

米拾五石

山内忠菴

右七人重

郷代ヨリ家

米拾五石

高野茂大夫

同

松井庄五郎

同

永井喜左衛門

同

天野庄右衛門

同

星野庄大夫

同

川口新左衛門

外三人扶持

外四人扶持

外三人扶持

外三人扶持

外三人扶持

同

外山左内

同

渡邊傳兵衛

同

石橋利平治

右九人勝

重代ヨリ家

同

藤田伊右衛門

同

栗林八大夫

同

角田仁兵衛

同

田中新助

同

篠原六之丞

同

安藤縫右衛門



同務

同 新金左衛門 新金左衛門

右七人、重宗代ヨリノ家

米拾四石 外三人扶持 三谷清大夫

同 神戶九郎左衛門

右二人重郷代ヨリノ家

同 鈴木多仲 鈴木多仲

同 村井與五右衛門 村井武左衛門

右二人勝重代ヨリノ家

米拾三石 外三人扶持 大槻覺左衛門

同 岡田鷹匠 金助

同 岩本次郎大夫

同 西田覺兵衛 方指南 外役料二人扶持

右四人重郷代ヨリノ家

米拾三石 外三人扶持 松原藤太夫

米拾二石 外三人扶持 小谷久三郎

同 儀崎與右衛門

右三人重宗代ヨリノ家

同 小林茂助 小林彦兵衛

同 山内茂左衛門

同 山内茂左衛門

同

小山與次右衛門

右三人勝重代ヨリノ家

米拾一石

外三人扶持

多津田小兵衛

重郷代ヨリノ家

同

中西庄左衛門

重宗代ヨリノ家

米拾石

外三人扶持

多上藤左衛門

多上左平治

同

山王堂兵三郎

山王堂儀右衛門

同

小野市左衛門

同

保田彌右衛門

同

福持九大夫

福持權之助

同

土屋彌大夫

吉田右衛門

同

外三人扶持

熊本清太夫

熊本善右衛門

同

石七人勝重代ヨリノ家

中村右衛門

同

外三人扶持

内田與五右衛門

同

赤井太郎三郎

赤井源五右衛門

同

能木久大夫

鹿流

能木治内

同

大藪平兵衛

大藪彌次兵衛

同

齋藤六左衛門

齋藤六左衛門

同

溝口徳左衛門

吉田右衛門

鹿忍度設

同 吉田忠大夫 吉田文内

同 大島與五左衛門 大島六五勘六

同 竹部平武助 大島與五左衛門

同 神野長左衛門 神野長左衛門

同 高田五左衛門 高田五左衛門

同 井上勘右衛門 井上勘右衛門

同 中村三郎大夫 中村喜左衛門

同 奧本文左衛門 奧本與喜之丞

同 吉田五郎兵衛 吉田竹右衛門

同 根岸郷大夫 根岸郷大夫

同 柏原森右衛門 柏原森右衛門

同 右筆 久松十助

同 右十八人重宗代ヨリノ家

同 中村徳大夫

同 脇部六大夫

同 右兩人重郷代ヨリノ家 三浦清右衛門

同 三浦清右衛門

同 外二人扶持 大久保所左衛門

同 右兩人勝重代ヨリノ家

同 圓城寺七之丞

同

神谷甚右衛門

同 石拾二人 小島七右衛門

同 石三人 重宗代ヨリノ家

七人扶持 狩野宗順

狩野少殘

同 重郷代ヨリノ家

米八石外四人扶持内 市川四郎兵衛

同 神野與惣左衛門

同 内山所右衛門

同 内山喜右衛門

同 中村三郎右衛門

門 和 習

同

柴田四郎左衛門

同

藤井元助

同

笹田市大夫

同

澤登仁左衛門

同

松本傳水傳左衛門

同

三浦善兵衛

同

寺内佐左衛門

同

石拾二人 重宗代ヨリノ家

同

三浦彦之丞

同

田上六大夫

外二人扶持

三浦 平馬

門 務 習

同 吉田茂作

同 遠山平右衛門

同 林覺左衛門 林藤兵衛

同 竹村才兵衛

同 外山兵左衛門

同 右七人勝重代ヨリノ家

同 大谷三大夫 大谷祖右衛門

同 外二人扶持 中村佐五左衛門 吉田八十次

同 甘利十郎左衛門 甘利半藏

同 原田惣右衛門 原田金右衛門

同 谷崎小右衛門 新谷五右衛門

同 坂葉新八

同 平野市兵衛

同 赤井又八郎 赤木六郎

同 川島與一兵衛 川島平兵衛

同 佐野助六 高野八大夫

同 武藤五兵衛

同 增田八左衛門

同 杉浦安兵衛

同 松橋孫大夫

同 務 賢

同 宮城 大夫

同 鈴木喜左衛門

同 山口傳傳右衛門

同 鳥飼傳五源八

同 青木磯右衛門

同 堀江七郎右衛門 堀江 安平

同 鈴木武大夫 鈴木傳六

同 林彌五左衛門

同 右二十二人 重郷代ヨリノ家

同 神谷新五左衛門 神谷佐左衛門

同 佐藤六大夫

同 右二人 重郷代ヨリノ家

銀拾一枚 善五左衛門傳 小野武左衛門

同 拾枚 治左衛門傳 都筑 勘助

同 齋藤金右衛門

同 高野七郎兵衛 高野八大夫

同 右二人 勝重代ヨリノ家

同 勘兵衛傳 田那村佐平治

同 小助傳 鈴木 與平

同 太師左衛門傳 芦田利兵衛

同 勘兵衛

同 五郎大夫悴

松田十郎兵衛

同 權右衛門悴

辻勘左衛門

同 六郎左衛門悴

野島長太郎

銀八枚 喜兵衛悴
外三人扶持

井上權兵衛

銀七枚 市郎兵衛悴
外二人扶持

尾崎治大夫

同 二郎左衛門悴

山口平四郎

同 半右衛門悴

岡本助九郎

同 高野貞右衛門

高野貞右衛門

同 新左衛門悴

川口角大夫

同 尾崎野右衛門

尾崎野右衛門

同 文左衛門悴

奥安大夫

同 儀左衛門悴

北久保清助

同 太郎三郎悴

赤井源右衛門

同 覺左衛門悴

林理左衛門

同 半兵衛悴

西川喜三郎

同 儀左衛門二男

北久保權助

同 與五右衛門悴

村井門三郎

同 彌次右衛門悴

酒多甚五兵衛

同 勘右衛門悴

井上市右衛門

同 外二人扶持

片岡大兵衛

内務省

左五兵衛二男

加賀山五郎右衛門

加賀山織右衛門

彦兵衛二男

岡村助右衛門

神野長兵衛

八左衛門二男

外科

熊木 養嘉

熊木何左衛門

銀七枚

助左衛門二男

田上佐大夫

田上縫右衛門

右五人勝重代ヨリノ家

同

新助倅

田中平三郎

外二人扶持宛

鹿之助倅

萩野加賀右衛門

竹村太右衛門

次郎大夫倅

岩本 孫七

市左衛門倅

小野 平助

平大夫倅

岩本吉兵衛

孫兵衛倅

桑野仲兵衛

桑野仲兵衛

重常代仲兵衛別家申付ル

玄固二男

辻 源三郎

辻彌一左衛門

同七枚

鷹匠

小谷野文助

右兩人ハ重宗代ヨリノ家

銀五枚

長右衛門倅
外二人扶持仕着

岡村 善助

同

目付 永井半大夫

永井孝左衛門

同

意垣倅
外五人扶持

一色作之丞

門務

銀四枚 庄大夫弟 徒士頭 星野藤兵衛

銀三枚 外五人扶持内二人扶持役料 本右衛門二男 天野郷右衛門

伊兵衛悴 本多儀右衛門

善右衛門悴 坂田金十郎

六左衛門悴 蜂谷藤三郎

銀五枚 外二人扶持宛 松田八之丞

清兵衛悴 桂清傳内

五郎左衛門悴 多羅尾久内

武右衛門悴 下村孫左衛門

黑野一郎大夫

後千本右衛門号

板倉上改

右衛門

四上

上

桑

桑

十左衛門悴

依田十七平

元固悴

辻與次兵衛

銀二枚 外二人扶持宛仕着七 川口源五兵衛

勝重代ヨリ家

孫右衛門悴 吉田六郎兵衛

九右衛門悴 澤部友右衛門

佐大夫悴 折井小平治

銀四枚 半十郎悴 外二人扶持 中村與五兵衛

銀三枚 外二人扶持 弥五左衛門悴 雨森彌一左衛門

又兵衛悴 尾崎作兵衛

尾崎作兵衛

庄兵衛 梅戸庄右衛門

治石衛門侍 角尾助之丞

久兵衛侍 三宅七兵衛

金拾兩 右筆 太田八郎兵衛

重郷代ヨリノ家筋

金四兩 外ニ扶持 中山儀兵衛 中山佐五兵衛

銀拾枚 外ニ扶持 岡野 勾當

石中山氏勝重代ヨリノ岡野氏ノ重郷代ヨ

リノ家筋ナリ

内

高取ノ備入九十五人

中知行取間年二十七人

高送切米取年百十九人

切符取年六十九人

分限帳

總高二萬七千五百五十四石九斗八升三合三

升三才

高勝重代ヨリノ家筋

高重宗代ヨリノ家筋

重郷代ヨリノ家筋

高勝重

内
重絶之家

一高百石取以上ノ馬廻リト云

高九拾石ヨリ六拾石マテ知行取ト云中小姓

但シ高百石取マテノ總領ハ中小姓ナリ九

月粟ノ召出シニ罷出ル是當時ノ大小姓ナ

リ

高五拾石取并中小姓ノ總領百石取以上ノ次

男是ヲ中之間ト云

但シ中之間ノ者五月糶ノ召出シ罷出ル

是當時ハ中小姓ナリ

中小姓ノ次男并中之間ノ總領ハ步小姓ナリ

但シ步小姓ハ總領ハ親同前ニ步小姓ナリ

步士ノ者總領モ親同前ノ事

年寄役ヲ總領ハ馬廻リニ男未知行取中小姓

三男ハ中之間ナリ

高百石取以上ノ總領ハ中小姓次男ハ中之間

三男ハ步小姓ナリ

高六拾石以上ヲ知行取ト云高五拾石取ハ知

行取ニテモ少々相違有之騎馬ニ不成カ

内務省

一家中貸米渡様之覺五下之部

高千石之内 春貸米二月二日

高百石之内 秋貸米七月二日

高百石之内 引様同前

高百石之内 引様同前

高百石之内 引様同前

高百石之内 引様同前

高百石之内 引様同前

高百石之内 引様同前

高四百石之内 高百五十石之内

米六十石 米二十石五斗

米四十石 米十五石

米六十石 米二十二石五斗

高七十石之内 高五十石之内

米七十石五斗 扶持米二度 引渡

米七十石五斗 扶持米二度 引渡

米七十石五斗 扶持米二度 引渡

米十八石之内 米三石五斗

米六石五斗 米三石五斗

米五石五斗十分一 三度 渡

内務省

内
和
律

一、米六石五斗五分

米十五石ノ内 米十石ノ内

米米五石五斗 米三石五斗

米四石五斗 米三石

米五石五斗 米三石五斗

是迄、京都ニテ渡ル、十分一六米ニ片、兵戸

關宿ニテ渡ス、但シ米、京都ニテ、有相場

米九石ノ内 米七石ノ内

米三石五斗 米二石五斗

馬米二石五斗 馬米二石五斗

一、米三石五斗五分、米三石五斗五分、用者

昔、神皇ノ命、少切米迄、石同斷

一、外銀拾枚ノ内、銀六枚ノ内、十枚、同斷

一、外銀百六十匁、銀九十匁

一、同百匁、同百匁、同百匁

一、同百六十匁、同百六十匁、同百六十匁

一、銀二枚ノ内、銀二枚ノ内、銀二枚ノ内

一、銀三十三匁、銀三十三匁、銀三十三匁

一、米同三十匁、米同三十匁、米同三十匁

一、米同三十三匁、米同三十三匁、米同三十三匁

内
務
省

仕著渡様

四月二日 六月二日 八月二日 十月二日

小袖二代八十又宛 帷子代十八又宛 上下三具代十三又宛

一米七石取候足輕ハ米四石江戸關宿常陸ニテ

渡之三石取ハ總様家中京都相場ノ通金ニテ

渡ス但京ヨリ妻子引越候足輕ハ米五石江戸

關宿ニテ渡シ二石ハ石之通金ニテ渡ス九石

取候足輕切米渡シ様石同前米拾石取候足輕

ハ侍ノ切米渡様同前

一他所ヨリ奉公人家中ヨリ召出候子共加増ノ

者跡目之者之覺

一知行切米切符渡様折紙出シ候月日ヲ用春

一過限テ申付候者月割ニ仕其分ヲ秋貸ノ節

一相渡シ可申候秋過候テ出候者ハ石ノ斷ニ

致シ冬貸ノ時渡可申候事

一冬貸過候テ出候者計ハ石ノ如ク月割ニ致

一極月廿日可相渡限有テ是外ハ是者相渡

右之通日限迄無相違様ニ可相渡者也

一辛亥正月日

一江戸ニテ計渡之覺

一切米八九石切符ハ銀拾枚仕着ニ銀五枚扶

一持方ハ二人扶持親百石迄事

可務省

一役料ノ知行并扶持万母扶持分ハ除之
 一小姓共一分ハ野菜味噌鹽ノ代一人一ヶ年
 銀五十目宛之事
 一小姓共一分ハ味噌鹽ノ代一人一ヶ年銀拾
 五匁宛之事
 一下屋鋪ニ器在候者關宿ヨリ代リニ来候者
 一同前之事
 一右何茂主人計分可相渡事
 一相果候者跡目不立後家ニ其月十元三ヶ月



一分ノ扶持方取ラセ候事
 一二月朔日二日ニ相果候者知行切米切
 符尺ニ可相渡夫ヨリ前ニ果候者ニハ不渡
 秋冬尺ニ同前之事
 一關宿ヨリ江戸へ来候者召連候人数茶林扶
 持方取ラセ候但シ母妻子不持候者ハ關宿
 一ニテ定扶持方三分一割但シ奉公ニ出ル子
 計持候者ハ悴不持者同前ノ事
 一江戸詰ノ者關宿へ供參候又ハ用之儀
 一遣候時母妻子持候者江戸ニテ定扶持方

半分引ハシ母妻子不持者ハ跡扶持并シ但
 一奉公ニ出候子計持候者ハ悴不持者ト同
 前ノ事首死後葬事并河前ノ事
 一郷中ハ總テ用之儀申付遣候者跡ニテ足扶
 持方相渡シ其止郷中ニテ一泊并外ノ積リ
 一取テスハシ但シ母妻子不持者ハ定扶持方
 三分一引ハシ奉公ニ出候子計持候者ト同
 前ノ事首死後葬事并河前ノ事
 一他所供ニ參又ハ用テ儀申付遣候時定扶
 持方可相渡事ハ之儀申付遣候時定扶

一關宿ヨリ江戸へ代リニ參夫ヨリ直ニ郷中
 へ參候者ハ江戸ニテノ扶持方不渡候事
 一歩行者被召置候節ハ四月晦日迄ニ被召
 置候者ニハ春貸米ヨリ渡シ但シ扶持方ハ
 罷出候日ヨリ渡ス五月朔日ヨリ以後被召
 置候者ニハ切米ハ白割扶持方右同斷
 一召抱候者并加増跡目ノ者米拾一石ヨリハ
 直折紙出候米拾石以下并切符ノ分ハ兩人
 ノ家老氏ヨリ折紙出ル事ハ前ノ事并河前ノ事
 一新參ニ召抱候者家中ヨリ召出候者加増遣

可務書

一 候知行切米等ニ至迄貸米ノ時分ニ成候テ
 三折紙出不申候ハ御意ヲ得年寄元切紙
 二判ヲ致シ勘定所ハ遣シ相渡重テ折紙出
 次第取替可申事候
 一 京ヨリ江戸迄急ノ使ニ參候時五日迄ノ積
 リニ下着候ハ旅籠代銀ノ外京ヨリ江戸
 迄駄賃錢半匹分ノ積リ被下五日過候ハ
 一 不被下候次ニ中間ハ足輕ニ被下候三分
 二 被下候但シ道法近キ時右ノ積リヲ以
 一 片被下候事

一 駕之者仕著被下候覺

三月九月裕一ツ三尺手拭一ツ上帶一ツ下帶一ツ三
 月單物一ツ五月帷子一ツ三尺手拭一ツ上帶一ツ下
 帶一ツ

外ニ草鞋錢ニケ月代物四十八文宛薪一
 外月一束宛

一 常州ヨリ譜代ニ召抱候料理人草履取杯仕候

給金一兩二分ニ仕著取候者在所へ洗濯ニ參
 リ候時分為路錢百文宛但シ右之者セイタケ
 テ用ニ立供ニ歩キ申時分ハ金二分程ノ

脇差買候テ被下候事

一ヶ年入用之積蓄又云御意云々

高五万石

此取米二万二千百三十石

俵ニメ五万五千三百二十五俵

金ニメ一万五千八百七兩銀八匁

但シ金拾兩ニ付三十五俵

但シ前年上知行賣米迄平均ニ付ル

一金子五百九十九兩一分銀七匁

内務省

公千八十四兩六匁關宿領萬運上金子ニテ納ル

金二百十七兩立山百姓山運上

米六十三兩内野錢納

七百二十六兩茶錢

但シ

五兩 雉子鳩運上年ニ寄り違

金四十五兩 川網運上入札物

金三十四兩 葭并山下前運上

金八十九兩 常陸下口鞋運上年ニ寄り違

金六十六兩 關宿川鮭運上右同斷

金百十兩一分 四ヶ村金納茅運上元

金二百五十兩 廣間到來八

又米

此金

此拂

米六斗三合

金二匁十兩

公儀獻上并合力方以進物入用

正八御馬代 重陽歲暮御小袖四ツ

端午御稚子白銀一枚

御謠初白銀一枚 猿樂配當米代金拾兩餘

米八百石 玉樹院様

米千六百石 治郎右衛門様

米千石 市正様

米銀百三拾五枚

金一但シ二十五枚宛

玉樹院様

清雲院様

松平甲斐守様、奥様

松平丹波守様、奥様

松平駿河守様、奥様

河務省

右之外御嘉例

金三十拾兩八

坂本養安老へ

米

家中知行切符切米一ヶ年
入用

金ニメ

米六千七百三十五俵

總足輕切符切米扶持米一ヶ
年入用

金ニメ千九百二十四兩二方

米三百二十五俵

中間頭坊主料理人切符切
米扶持方入用

金ニメ九拾兩

米六千三百二十五俵

中間五百五十人ヲ一人四石
六斗ニメ入用

金ニメ千八百七兩

米四百五拾八俵二斗

金ニメ百三拾一兩

米但シ鹽噌野菜代小姓并坊主在銀五十匁

米步小姓步行衆銀拾五匁宛

米四百六十一俵

江戸馬并關宿家中
馬入用

金百三拾二兩

米大豆百八十四石八斗米ニメ同

米九百九十七俵二斗

自分遣方入用

米金二百八十五兩

米二百五十俵

隱岐守遣方入用

河務所

米金百兩

米七百三拾五俵

米金二百拾兩

米千九百二十五俵

米金五百五十兩

米二百四十五俵

米金七十兩

米六百三十俵

米金百八十兩

米千百五十五俵

武具馬具入用

關宿城江戸屋鋪作
事方入用

駁賃船賃入用

知行所諸事入用

江戸關宿臺所入用

書天橋金三百三十兩

其用米七百俵

成候金二百兩

米四百二十俵

金百二十兩

米百五十俵

金三十兩

米五俵二斗

金一兩二分

俵數合

河務省

石ニ

金ニ

差引

米

金ニ

都合

米

私言

其頃松平日向守信之公亭ニ御入緩々御語此積書ノ御望認上ニ拂高末ニ至リテアフナキ事ト

御笑語逐一御傳受有之御挾箱ハ御入歸ナサレ

候信之公其後御老申御加恩古河御城主ニ被為

成候其外戸田備州公ニモ御傳其節公被仰候ハ

其方ニハ御留守居役モ御勤可被成候傳受ニハ

請ト不請ト勝ト負ルト次第有又被仰候ハ石谷

氏或時浪人ヲ御頼ニ有之實體成律儀成トハ皆

肝煎口ニテ候律儀者實體者皆此方ニ有之候若

御徒ヲ勤算勘能仕物ヲ書候者有之ハ御肝煎可

給候此藝ナクテハ此方望無之由被仰候其後御

徒相勤物并能書算勘達者ハ由ニテ御肝煎高二

可務

追加名

妻 忌 十四日 七日_{ニテ} 服 九十日

子 十四日 七日_{ニテ} 御免 九十日

孫 合 七日_{ニテ} 御免 三十日

甥姪 五十一日 一日_{ニテ} 御免 七日

御城上野紅葉山増上寺へ使ニ遣候節、御直

ノ衆ノ忌之通相心得理可申者也

酉五月廿八日

女子

一母ハ酒井紀伊守源忠吉女_竹三十日

一松平伊豫守源綱政_工縁組有之處婚姻前疾

病ニテ不嫁シテ俄ニ卒ス_于時萬治元戊戌

八月二十九日參州藩頭郡具吹村萬燈山長

圓寺ニ_ニ歛ム_ハ法名寒宮院殿月秋清光大姉ト

稱ス_俗名龜春秋十八歳

源綱政ハ從四位少將備前國御野郡岡山

一源_ハ國主_ニ萬治元戊戌_ニ縁組_ハ胡

重常

一童名新十郎後十隱岐守ニ任ス

一母ハ前ニ同シ

可務旨

但シ系譜委鋪別ニ誌ス

女子

一母ハ前ニ同シ

一堀田豊前守紀正休室ト成ル名ハ隼賢永六

己丑十月十六日卒ス法号涼松院殿泰巖智

清大姉ト唱ス東都淺草法江山金藏寺ニ葬

ル享年五十有二

一堀田正休ハ近江國坂田郡宮川之領主

万石上州吉井ヲ領明曆元乙未七月六日東武ニ生

一幼名帶刀諱始ノ正清ニ父正職ト改メ

又正昌ト云又正國ト改メ其後正休ト唱

ス致仕ノ正休ヲ俗名トス享保十六辛亥

七月十二日卒ス東武淺草金藏寺ニ歿ム

一ル法名悠靜院殿夢梅殘石大居士ト稱ス

一實母ハ家女房名氏不詳寛文十二壬子十二月十

八日卒ス東武駒込諏訪山吉祥寺ニ葬ル法

号雲照院殿覺譽壽慶大姉ト云

正房

一延寶三乙卯十月九日ヲ以東武ニ於テ誕生

一左衛門ト云フ

可務身

一母ハ板倉阿波守重郷女

一病氣ニ依テ退身シテ後子友慰ト改ム

一享保元丙申十一月晦日卒ス東都淺草法

江山金藏寺ニ葬ル法名影現院殿台潤圓

受大居士ト唱フ

某 早世

一齋宮

勝浮 初重武

一延寶五丁巳十一月十七日江府ニ於テ生

ル

一幼名内匠ト云又修理ト改名ス

一母ハ正方三同シ

一板倉東市正重太養子ト成ル

但シ板倉東市正重太系譜ニ委鋪記ス

正朝 初正序又夕國藩
トモ其後正甫

一延寶八庚申三月廿三日江府ニ於テ誕生

ス

一幼名仙四郎ト云爾來女ト改ム後子駿河

一守ニ任ス正方病氣ニテ退身ト成リ

一成ル

来恐来誤

一母ハ正方ニ同シ

一享保四己亥八月廿日大坂ヨリ加番歸リ

一〇砌病氣ニテ本曾路道中濃州細久手驛

ニテ卒ス東都淺草法江山金藏寺ニ葬ル

一法名正朝院殿月桂台光大居士下稱ス享

五年四十一歳

正陳 初正附

一出羽守後子加賀守下改法

一母ハ板倉隱岐守重常女

職朝子内五ノ云ノ如シ

一花房近江守幼名數馬

女子 早世

一母ハ正陣ニ同シ

一京保三戊戌二月廿八日卒ス法号青ハ院

殿

女子

某 早世

一半之丞

正邦

一童名三四郎後子出羽守ニ任ス

前陣
今作陳
今姑依之

△
雜解
今姑依之

可
務
當

正命

一本多彌八郎

安親

一圖書後千淡路守ニ任ス

一初ノ脇坂一角安種ノ養子ト成リ家督ノ

後千本家脇坂伊勢守安實死去ノ處實子

無之ニ入彼家ヲ相續ス

職勝

増基方

一貞享元甲子十月十一日東武ニ於テ生ル

左京ト云云

一母ハ正方ト同シ

一花房五郎左衛門職攻養子ト成ル

一寶永七庚寅七月二十六日卒ス江府赤坂

靈鳳山種徳寺ニ葬ル法号心空院殿竹溪

一宗賢大居士ト稱ス

正真

一元禄二己巳四月二十七日江府ニテ生ル

幼名林之助又内記ト改ム後千播磨守ニ

任ス

一母ハ正方ト同シ

可務守

一 同姓伊豆守正虎養子トナル

享保二丁酉八月九日部屋住ノ内卒ス淺

草金藏寺ニ葬ル法名正明院殿頓與真圓

一 大居士ト号ス

二 興

一元祿四辛未八月二十八日東武ニテ生ル

頼母ト云フ知名幸之助ト云フ

一 母ハ正方ニ同シ

一 堀田孫太郎ニ平養子ト成ル

一 延享三丙寅六月十九日卒ス東都深川六

一 間堀東光山要津寺ニ葬ル法号子圓院殿
一本覺淨心大居士ト稱ス

女子

一 母ハ正方ニ同シ

一 越前敦賀郡敦賀ノ領主酒井飛騨守源忠

菊室ト成ル名ハ花

一 正徳五乙未二月三日卒ス江府谷中慈雲

山瑞林寺ニ葬ル法名香林院殿圓檀日馨

大姉ト号ス

親本

月 券 旨

一外記

忠武

一佐渡守

忠知

一刑部

一

一求馬

女子

一母

一羽州村山郡山形城主堀由伊豆守紀正

一虎養女上成ル名ハ藤

一寶曆七丁丑五月十四日卒又江府淺草新

一寺町神田山日輪寺二葬ル富恩院殿慈弔

一貴屋惠光大姉卜唱ノ

一正守

一龜之助

正直

一播磨守

一寶ハ同姓豊前守正休五男

女子

一

内記

一五島大和守源盛高室卜十儿後子水野

一横津源勝次子再七嫁五良

正春

二内記

一實公播磨守正直ノ男

某早世

一伊織

一貞享元甲子五月二十六日卒

某早世

一大之丞

一天和二正戌五月十七日卒

女子

一水谷信濃守勝比室卜成儿

女子

一同姓伊豆守正虎養女卜十儿

女子

某早世

一三十郎

一母八家女房

女子

内記

一養母酒井紀伊守源忠吉女

一實ハ松平駿河守源典信女ナリ重郷養テ女

一トス

一實母ハ周防守重宗女

一内藤志摩守藤原忠次室トナル一女ヲ生ハ

故テ少テ後テ離縁依テ再ニ中山東市正丹

治信行ハ嫁ス

一志摩守忠次ハ飛騨守忠政ノ長男志摩國

荅志郡烏羽ノ城主ナリ病氣ニ依テ蟄居

一又實永元甲申五月二十五日卒去法名涼

一性院殿覺翁圓心居士ト稱ス江府小石川

無量院ニ葬ル

女子

一母ハ板倉阿波守重郷養女

一實母松平駿河守典信女

一板倉隱岐守重常ハ養女トナル酒井帶刀忠

親ニ嫁ス名ハ石川

一石之阿波守重郷養女名ハ布里先ニ内藤志

摩守忠次ハ嫁タル處後テ故障ナツテ離縁

依之再ニ中山東市正丹治信行ハ嫁ス

治信行



中山信行、常陸國久慈郡太田ノ領主ナリ
天和二年戊十二月十六日卒ス水戸ノ

桂岸寺ニ葬ル法名中山院殿市令信行大

居士下唱ノ野州日光山妙道院ニモ石碑

ナリ板倉勝重補遺ニ委シク出タリ

室布里女元禄十一戊寅十二月二十八日

卒ス東都駒込諏訪山吉祥寺ニ歿ム法名

秋香院殿元光妙桂大姉ト稱ス享年不詳

信成

一備前守



一母ハ板倉阿波守重郷養女

信敏

一備前守

信順

一備前守

信順

信昌

一備前守

板倉政要補遺卷之拾壹

月務

外書及受贈圖書之目録

内
承
校

明治九年六月

板垣経信

宮田近義 校

一 謝 啓 書 宛 紙 一 紙 抄 本 大 學 講 義 書 等
二 謝 啓 書 宛 紙 一 紙 抄 本 大 學 講 義 書 等
三 謝 啓 書 宛 紙 一 紙 抄 本 大 學 講 義 書 等

